

# 会議録

平成26年7月14日(月)場 所 3階 第5研修室

会議名：第15回総合交通体系調査特別委員会

出席委員：又地委員長、佐藤副委員長、福嶋委員、吉田委員、平野委員、笠井委員  
新井田委員、東出委員、岩館委員

欠席委員：竹田委員

会議時間 午後4時00分～午後4時27分  
事務局 山 本、吉 田

---

## 会 議 次 第

### 1. 委員長挨拶

**又地委員長** それでは、定刻になりましたので、ただいまから第15回総合交通体系調査特別委員会を開会いたします。

ただいまの出席委員は9名でございます。

竹田委員から欠席の届け出がありました。

よって、木古内町議会委員会条例第14条の規定による委員定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。

ただちに本日の会議を開きます。

本日の会議次第は、別紙配付のとおりでございます。

きょうは、何か中途半端な時間帯に、交通体系のこの委員会を持つことになりました。誠に申し訳ありません。

先ほどの懇談会が3時ということで設定されまして、且つ、また副町長が江差と長万部の町長さんが決まりましたので、そのお祝いに駆けつけたということで、この時間帯になりましたことを深くお詫び申し上げます。

### 2. 調査事項

#### (1) 並行在来線の取扱いに関する事

**又地委員長** それでは、早速本日の調査事項に入りたいと思います。

1番目、並行在来線の取扱いに関する事を議題といたします。

皆さんの手元に、これは函館新聞の昨日、一昨日の記事だったと思いますけれども、「JR過失なら補修費負担」ということで、あす開かれる予定の設立準備協議会に4点の事項が追加案として出るようでございます。そのことに関して、若干の懇談を持ちながら、事務調査に入りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

行政サイドのほうから、何かありましたらお願いいたします。

町長。

**大森町長** 大変、お疲れ様でございます。

私のほうの都合で、開会の時間設定をこのような時間にしていただきまして、ありがとうございました。

まず、あすの三セク協議会開催にあたりまして、当町は臨む姿勢ということになり

ますが、これまで皆様方から三セク開業に向けまして、大変心配の声が多い中で臨むわけでございます。

私もこれまで道との協議を続けるその中で、厳しい発言も随分してまいりました。なかなか前に進むことができないという極論まで話をいたしました。JR北海道とは今後ともパートナーとして、引き続き一緒にやっていかなければならないという部分もありますので、若干見切り発車ということにもつながりますので、「三セクに移行後、絶対事故が起きないという会社を目指す」、その心づもりで、今回の三セクにあたっては、皆さんと歩調を合わせるということで進めたいと思っております。心配する事項が多々ございますので、それはしっかりと意見として反映をし、その中で設立後は安全対策をしっかりとすると。それに対してJR北海道、さらにはJR貨物、北海道とも十分協力をいただく。さらには、国の機関に対してもしっかりとものをを申していくと、こういう姿勢で臨んでいきたいと思っておりますので、皆様方のご理解をお願いいたします。

**又地委員長** あす、準備協議会が開催されると。あす、町長も出席するというので、町長の意気込み等が、いま町長から報告がありました。

委員の皆さん、何かございませんか。

第14回でも確認しておりますけれども、「三セクはOK」と。それと、8月1日の会社設立。この件だと思っておりますけれども、委員の皆さん何かございませんか。

もし、追加合意案が示されましたけれども、このことがあすの協議会の中で認めていただけるということであれば、8月1日の会社設立については、皆さんこの委員会としてもOKという形になるかどうか、その辺のご意見を伺いたいと思います。

平野委員。

**平野委員** 先ほどの懇談会に遅れてすみませんでした。

先日、私も新聞記事でこの追加合意についての記事を拝見しました。きょう、4点について詳しく書かれているのですけれども。事故後、当然過失があるほうが、三セクなのかJR北海道なのか、負担するというのは変な話当たり前のことであって、決してこの追加合意の内容があったから「じゃOKだ」と言う話ではないと思うのです。

当然、このいままでの流れ・経緯から考えても、2年前に起きた事故の原因が未だに究明されないという中で、ではこのあと三セクになった時の事故したあと。では何年かかってその事故の原因が究明されるのかという不安も現状ありますし、またJR側が経営を譲渡する際に、この中では「当然、安全対策をがっちりしましたよ」という約束の元で渡すわけですね。であれば、そのあとに起きた事故は、おそらく三セクに過失があるのではないかということが推測されるような、余計何か不安な要点も感じられる内容に私は感じました。故に大事なことは、このいわゆる第三者機関による調査、そして点検、必要な整備。この辺が本当に「100%行われましたよ」と、先ほどの懇談会の中でも議長から話が出ていたとおり、安全に対しての町民、あるいは我々の不安が全然払拭できていない現状があると。その辺を、きちんとした第三者委員会がこれ全てなのかどうかわかりませんが、きちんとした掲示を数字を元に、「安全です」という提示をきちんとして出していただいて、それを十分に納得した上で話を進めてほしいと。町長も同じ考えだと思っておりますが、再度委員としての意見として申し述

べさせていただきます。

**又地委員長** ほかに。

吉田委員。

**吉田委員** 先ほども道のほうの局長のほうにもお願いをしました。私は、やはり最後は将来的な展望を見た時に、先ほどの民法で決まった10年の瑕疵担保の部分ありますよね。この部分が一番心配です。三セクにした場合も、年々やはり自治体負担というのは大きくなっていくのかなというのが、それが心配です。それに輪をかけて10年過ぎた時点で、もしこのような事故が再度起こった場合、当然自治体における負担というのはすごくなる可能性があります。この負担の部分、確かに民法で10年という感じでありませぬけれども、その部分をもう少し長くできるなら、それを訴えていただきたいなというのが、先ほどの話の中で気がついた部分であります。

先ほども原因・安全対策というの、原因がわからないで安全対策はできないのですよね。未だに原因がわからない、2年経ったてもたぶん3年経っても出てこない。この辺をやはり自治体としては、やはり不安視せざるを得ない。この部分もやはり町長にちょっと頑張ってもらって、早急にやはり原因を究明していただいて、確かな安全対策をしていただきたいということをJR側に申し上げていただきたいなと思います。

これがないと、私達が一生懸命聞いていても、町民の皆さんがやはりすごい不安でなりません。そして、いま新幹線開業に伴いまして、やはり観光云々という形の中で進んでいる中で、この安全対策が取れないこの第三セクターのJRを活用して、観光推進というのはなかなかならない。それをいかに払拭していくというのが、大森町長に、たぶん明日の協議会でもこの辺を強く言っていただけるのかなと期待していますので、よろしく願いいたします。

**又地委員長** 平野委員。

**平野委員** すみません、ちょっと確認なのですけれども。

いままでのJR北海道が調査した結果ということの流れから考えても、様々な改ざん等があった関係から、なかなかちょっと信用に欠けるといふ心配点がございます。

それで、これは1番ですけれども、「JR北海道は」という言葉からはじまりまして、「第三者機関による調査を行う。」という部分なのですけれども、この第三者機関というのは、どのような方々を示しているのか、わかっていけばお知らせ願いたいと思います。

**又地委員長** 福田課長。

**福田まちづくり新幹線課長** ただいまのご質問でございますが、第三者機関につきましては、これは鉄道総研。公益財団法人、鉄道総合技術研究所を想定してございます。

この鉄道総研につきましては、JR全国7社が出資いたしまして、鉄道技術に関する研究等を一括行っている機関でございます。

**又地委員長** ほかに。

6月25日の北海道新聞の記事にも町長の談話が載っています。「このまま三セクに移行して本当に安全なのか、いま一度立ち止まって考えるべきではないか。」というコメントも載っておりますので。

いま、2人の委員のかたからいろいろ出ましたけれども、この辺は再度、念を押すよ

うな形になるでしょうけれども、あすの協議会にはこの部分を十分強調していただければと思います。

ほかに。

私のほうから、先ほど委員の皆さんからもいろいろ出ていましたけれども、15箇所のカントがついている部分、9cmの高さだということですが、その部分での事故が起きているということであれば、例えば貨物列車の事故ばかりですので、貨物列車のスピードのダウンだとかいろいろな方策が考えられるだろうと。その辺をあすの協議会の中でも、少し話をして見るべきではないのかなと。これが、例えば特急だとかの事故もあったということであれば、これはもっともっと深い原因があるのではないかと思いますけれども。何せ21両編成で、大変な荷物を積んでいるという中では、やはりJR貨物さん側の責任なのかどうかはわかりませんが、まだ原因が究明されておりませんので。その辺も福嶋委員からも出ていましたけれども、あるいは岩館委員のほうからも出ておりましたけれども、その辺も少し協議会の中で討論していただければとそんなふうにも思いますので、よろしく願いいたします。

ほかにございませんか。

(「なし」と呼ぶ声あり)

## (2)その他

**又地委員長** ないようですので、その他に入ります。

その他で何かございませんか。

吉田委員。

**吉田委員** その他というのですか、きょう14日ですよ。8月1日、明日協議会があると。協議会はもうこれで終わり、1日までの間の最終協議会になるのですか。

**又地委員長** 福田課長。

**福田まちづくり新幹線課長** 8月1日の準備会社設立、これの前にはあすの協議会が最後になります。

あすにつきましては、協議会でこの追加合意等について認められた場合、会社設立のための発起人会を開催する予定でございます。

**又地委員長** その発起人会というのは、あすすぐやるのですか。

福田課長。

**福田まちづくり新幹線課長** 明日、協議会の後、開催することになります。

**又地委員長** そうしたら、委員の皆さんにちょっとお諮りいたします。

あす協議会がありまして、きょう示されました4案の追加合意案。4案があす持っていったらいいわけですが、そのあとどんな形になったのかというのは報告をしていただくべきだと思うのですが、皆さんいかがですか。

(「はい」と呼ぶ声あり)

**又地委員長** それは、報告をしていただくということにいたします。

それで、日程等がいつ頃になるのか。明日、発起人会も開かれるわけでしょうし。

町長、どうでしょうかその辺は。

町長。

**大森町長** どのような形で報告していいかをご相談させていただきますが、このように会議を開催する中でご報告をしたほうがいいのか、あるいは書面ができていたとすれば、その書面を取りあえず急いでお渡しするという方法がありますが、どちらがよろしいか決めていただければそれに従いたいと思います。

**又地委員長** 暫時、休憩をいたします。

**休憩 午後4時16分**

**再開 午後4時17分**

**又地委員長** 休憩を解き、会議を再開いたします。

ほかにございませんか。

平野委員。

**平野委員** ちょっとまだ時期尚早かもしれませんが、あす協議会が行われ、発起人会が進み、8月1日に会社が設立した後、現状はそれは安全対策を第一に話を進めていることと思いますが、その後会社設立後、どのようなスピードで進んで行くかちょっとわかりませんが、現状で例えば朝一番に札幌に出張に行きたい時の、朝一番の6時の始発で行くと、函館で1時間以上待つ。7時の2番の汽車で行くと間に合わないという様々な時刻の改善点であったりだとか、あとは列車内の乗り心地に関する要望点。町民から様々な部分が届いておりますので、今後そのようなことを進めていく際には、十分にこの委員会でもいいでしょうし、町民の要望を聞いた話を今後反映して、町長には進めていってほしいと思いますので、一つよろしくお願いします。

**又地委員長** 町長。

**大森町長** この協議会とはまた別の議題になるのですが、いま7時で木古内を出ていたのが、函館で8時30分に乗れない。いま8時13分になってしまったということで、6時の列車に乗って行かなければならない。木古内から札幌までいま6時間はかかるということになります。

この問題について、この三セクの協議会で以前JRに要請に行った際に、直接島田社長に私のほうからお話をしました。新青森まで来る新幹線に合わせた道内のダイヤを組んだのはいい。しかし、ローカル線について全く見直しをしないまま進めてしまったことによって、これまでよりも1時間多くなる、この辺の見直しについて、ぜひお願いしたいということをお願いしました。

また、木古内の駅長に対しても同様の要望をしております。このあと、8月1日にダイヤ改正があるというふうに伺っております。

このダイヤ改正は、これまで休んでいた北斗、この辺でいくと北斗です。北斗という列車が再出発するということなので、それに基づいたダイヤ改正というのがなります。

ここからは、非常にまだ決定ではないのですが、8月中にローカル路線の見直しもしたいということをお社のほうで考えているようなので、とりあえず私どもからの要請に対しての答えが8月中には出るのではないかと期待しております。まだ、「100%そうする」という答えをもらっていないものですから、この場で「そうなります」という

答弁ができないのですが、「見直してくれる」ということで協議をしている。それも時期は先ではなくて、「8月の終わりくらいまでには何とかしたいということ」を、間接ではありますが聞いております。

**又地委員長** ほかに。

町長、合わせましていま町としても、あるいは檜山・西部四町いろいろ連携をとりながら、町としても随分お金をかけてインフラ整備もしている中で、新幹線の本数が何本停まるのかというのはいつ頃わかるのですか。

町長。

**大森町長** 最終的にわかるのは、JRから北海道新幹線のダイヤ発表の時というふうに伺っております。それがいつかというのは、現時点では示されていませんので、わからないのが現状でございます。

当町と今別町で共同で行っている小さい町のダイヤ、何本停まるかと。小さいまちの駅に何本停まるかというのも、全く答えがいつ出るかわからない問題になっております。

そういったことで、時期についてはわからないのではありますが、JR北海道に対しては、現在特急列車が往復20本停まっていますので、最低20本は停めていただくように要請をしているところでございます。

また、先般、高速走行の区間について、政府・与党のプロジェクトチームが新幹線の開業に合わせた形で、「最低1本は函館まで4時間を切る列車を持ってきましょう」と。こういうことが正式に議論され、国に要請をしています。これが、それで北海道のPR効果ということには必要なことだと思いますので、「よし」としているわけですが、さらに危険な議論をしているのは、「その本数をさらに多くできないかの協議をしましょう」と。これが当町にとりましては、今別町と同様、飛んで行ってしまうという危険性があります。そうしますと、何本停まるかわからないですけれども、1本増えることによって1本当町に停まる列車が減ることが想定できますので、これに対してはその必要性はないだろうということで、引き続き訴えていきたいと思っております。

さらに、3時間台の列車ということになると、このままの状態でも木古内の駅は3時間台です。したがって、「いまの状態でも北海道の最初の駅には4時間を切るのだよ」というPRもできるわけですから。こういったことも合わせてお願いをしていきます。

以上です。

**又地委員長** 我が町としても、大変な設備投資をしているわけですよ。だから、本数が減ることによって、その効果がだんだん薄れていくということにつながるかと思っておりますので、その辺も合わせて少し。

これは、三セクには関係ないのですけれども、時あるごとにその部分の要請も強くしていただきたいと。この委員会も、ある意味では行政と一緒にあって、その部分では汗をかくことは一緒に汗をかきたいとそんなふうにも思っておりますので、よろしく申し上げます。

町長。

**大森町長** ぜひ私どもと歩調を合わせた形で、国に訴えていっていただくようご協力をお願いしたいと思います。

私は、プロジェクトチームのかたが函館にやってまいりまして、説明をしてくださったその席上、「少なくともいま木古内を飛ばすとか、今別を飛ばすとかということで、函館までの3時間の列車を増やすという議論は、これは「小手先の議論であろう」と。根本的な議論は、そんなことをしない。走行区間が、貨物と新幹線だからいま問題になっているわけです。それが、新幹線と新幹線であれば何の問題もない。であれば、いまJR北海道とJR貨物が共同で開発をしているトレイン・オン・トレインについて、真剣に考えていただくべきであろうと。新幹線と新幹線がすれ違う、何ら問題もないわけですから。その議論が優先されるべきだということになります。PTのほうも、「それについてはできるかできないかをこれから議論する」という内容でございますし、また運輸局はその3月にはじめて国として議論をはじめたと、そんなことも聞いておりますので。

また、JR北海道はこれに対しては、「資金が必要な事業ですので、ぜひ国の事業として認めてほしい」と、こういう要請もこれまでどおり続けているということでございます。

皆さん方と一緒に要望していくというのは、これから継続的に行う必要が私はあると思います。そういった意味で、JR北海道、さらに北海道、こういう方々に様々な相談をしながら、皆様方と行動をともにして、1日も早くトレイン・オン・トレインの実現に向かっていきたいと思っております。

**又地委員長** ほかにございませんか。

(「なし」と呼ぶ声あり)

**又地委員長** ないようですので、これをもちまして第15回総合交通体系調査特別委員会を終了いたします。

ご苦労様でした。

説明員：大森町長、大野副町長、福田まちづくり新幹線課長、中尾新幹線振興室長

傍 聴：なし

報 道：道新 大塚支局長

総合交通体系調査特別委員会  
委員長 又 地 信 也